

④自然環境の保全と再生（緑の保全と再生）

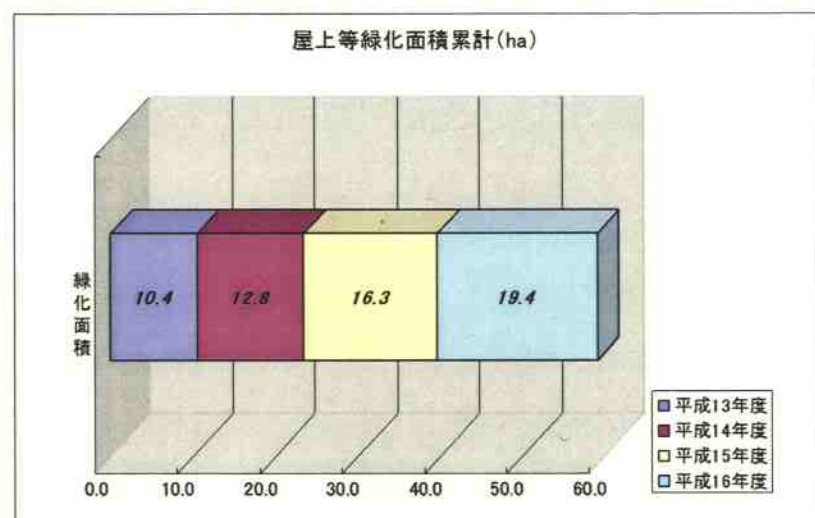
第1回環境都市づくり調査会資料（論点整理用ペーパー）

目的	現状と課題	目標（求める将来像）		施策の基本的方向性(主な事項)	備考 (特に重点的な取組事項 /他施策への二次的効果等)
		中長期的目標	短期的目標		

多摩の森林と丘陵地の保全と再生、市街地における緑の回復と農地の保全

- ◆ 自然環境の保全と再生に向けた取組での端緒的な成果
- ◆ 減少のつづく東京のみどり
  - 環境の視点から森林管理を行う森林再生事業の開始
  - 自然保護条例に基づく屋上等緑化の義務付けにより、日比谷公園1個分の緑を毎年創出
  - 自然保護と観光の両立のためエコツーリズムの開始と定着

◆屋上緑化の義務付けにより約60haの緑を新たに創出



◆依然として減少の続く東京のみどり

2003（平成15）年のみどり率（暫定値）

デジタル航空写真画像データ等を用いた調査により得られた暫定値

多摩	約72%
区部	約24%

- 1998（平成10）年から5年間の変化の分析結果（推定）
  - 多摩：約2ポイント程度減少
  - 区部：約1ポイント程度減少

【課題等】

- これ以上の緑の減少を食い止め、東京の緑をよみがえらせるため、既存施策の見直しについて検討が必要。
- より多くのみどりを保全・創出していくためには、現行制度の強化や既存樹林を確保するための方策などについて検討が必要
- 生物多様性の確保のため、質の高い緑の確保を進めると共に、希少動植物などへの配慮が必要

「みどりと水の都」の復活を目指す

東京の緑の危機的状況を踏まえた新たな施策展開

① 今ある緑の保全  
質の確保の重視

② 新たな緑の積極的  
創出

地域、緑の種類も考え、  
どのような将来像、  
目標が適切か検討

緑施策の再構築

- これ以上の緑の減少を食い止め、東京の緑をよみがえらせるため、既存施策を見直し
- NPOや企業など、様々な主体との連携
- 利活用を重視した参加のしくみづくり
- 農林業、観光等産業施策との連携

森林・里山

- 森林再生事業等森林保全策の着実な実施
- 現行制度の強化・見直し（開発許可制度）
- 利活用と参加による自然地管理のしくみづくり
- 保全地域を適正に保全・管理していくための財源の確保

市街地の緑

- 現行制度の強化・見直し（緑化計画書制度）
- 屋敷林等既存樹林地の保全にむけたしくみづくり
- 緑の質を高めるためのしくみづくり

生物多様性

- 生物多様性確保を考えた緑の確保
- 希少野生動植物種への配慮
- 有害鳥獣や外来生物の適正管理

【検討（施策構築）に必要なデータ、体制等】

- 今後、緑白書の編集に伴い、現況等を分析
- GISを活用した緑情報の総合化
- 今後の都市開発、宅地需要の動向 など

【関連する施策】

- ・ 水循環の再生
- ・ ヒートアイランド対策
- ・ 良好な景観の確保
- ・ 総合治水対策